

漢字とひらがな 二(千字)

日本語の文章は、漢字とひらがなを混せて書く。「山に登る」なら、「山」と「登」は漢字で、「に」と「る」はひらがなだ。私たちは、この二つを当たり前のように使い分けている。

漢字は、今から二千年以上前に中国で生まれた文字だ。日本には千五百年ほど前に、中国や朝鮮半島から伝わった。それまで日本には文字がなかったのだ、人々は外国の文字である漢字を使って、日本語を書き表すようになった。漢字は、一文字で意味を表す。「山」を見れば、読み方を知らなくても山のことだとわかる。読み方は「やま」とも「サン」とも読め、一つの字に読み方が二つ以上あることが多い。日本語の読み方を訓読み、中国から来た読み方を音読みという。さらに、文の中では、漢字は意味のまとまりを表す部分に使う。「走る」の「走」、「学校」「花」のように、物の名前や動きなど、意味の中心になる部分が漢字で書かれる。

たとえば、国語の授業で新しく「海」という字を習うと、先生はまず「さんずいは水に関係がある」と意味から教える。次に、「うみ」という訓読みと「カイ」という音読みを習う。「海水」「海岸」と熟語を作ると、一つの字がいろいろな言葉の中心になることがわかる。

ひらがなは、日本で生まれた文字だ。平安時代に、漢字を速く書くうちに形がくずれてできた。「安」という漢字をくずして「あ」、「以」をくずして「い」ができたように、一つ一つのひらがなにはもともなった漢字がある。平安時代には女性がおもに使い、紫式部の「源氏物語」もひらがなで書かれた。ひらがなは、音だけを表す。「あ」という字そのものに意味はなく、読み方は「あ」の一つしかない。ひらがなをならべてはじめて、「あめ」「あさ」のように意味のある言葉になる。文の中の役目はどうか。ひらがなは、言葉と言葉をつなぐ部分に使う。「が」「を」「に」のような助詞や、「走る」の「る」のような言葉の終わりの部分だ。

一年生の弟が書いた手紙は、全部ひらがなだ。「きょうはしをわたった」とある。これだと「橋」をわたったのか「端」をわたったのか、すぐにはわからない。「今日、橋をわたった」と漢字を入れると、「橋」で意味がはつきりし、「を」「わたった」のひらがなが言葉をつないで、文がすつと読める。

意味を表す文字か、音を表す文字か。この二つを組み合わせることで、日本語の文は成り立っている。

漢字とひらがな 二（千字） 課題

課題一

この文章を二百字以内で要約しよう。

[illegible]

課題二 比べている観点を三つ書こう。

①

②

③

漢字とひらがな 三（千字・硬い語彙）

日本語の文章は、漢字とひらがなを交えて表記する。「山に登る」であれば、「山」と「登」は漢字、「に」と「る」はひらがなである。我々は、この両者を無意識のうちに使い分けている。

漢字は、今から二千年以上前に中国で成立した文字である。日本には千五百年ほど前に、中国や朝鮮半島を経て伝来した。それ以前の日本には文字が存在しなかったため、人々は外来の文字である漢字を用いて、日本語を表記するようになった。漢字は、一字で意味を表す。「山」を見れば、読み方を知らずとも山を指すことが理解できる。読み方は「やま」とも「サン」とも読め、一字に複数の読み方が存在することが多い。日本語に由来する読み方を訓読み、中国に由来する読み方を音読みと呼ぶ。次に、文中での役割を見る。漢字は意味のまとまりを担う部分に用いる。「走る」の「走」、「学校」「花」のように、事物の名称や動作など、意味の中核となる部分が漢字で表記される。

国語の授業で新出漢字の「海」を学ぶと、教師はまず「さんずいは水に関係がある」と意味から説明する。次に、「うみ」という訓読みと「カイ」という音読みを学ぶ。「海水」「海岸」と熟語を構成すると、一字が多様な語の中核となることが理解できる。

一方、ひらがなは、日本で成立した文字である。平安時代に、漢字を速く書くうちに字形が崩れて生じた。「安」という漢字を崩して「あ」、「以」を崩して「い」が生じたように、個々のひらがなには由来となった漢字が存在する。平安時代には主として女性が用い、紫式部の「源氏物語」もひらがなで記された。ひらがなは、音のみを表す。「あ」という字そのものに意味はなく、読み方は「あ」の一つに限られる。ひらがなを連ねてはじめて、「あめ」「あき」のように意味を持つ語となる。文中では、ひらがなは語と語を接続する部分に用いる。「が」「を」「に」のような助詞や、「走る」の「る」のような語尾の部分である。

たとえば、一年生の弟が書いた手紙は、すべてひらがなである。「きょうはしをわたった」と記されている。これでは「橋」を渡ったのか「端」を渡ったのか、即座には判別できない。「今日、橋をわたった」と漢字を交えると、「橋」で意味が明確になり、「を」「わたった」のひらがなが語を接続して、文が円滑に読める。

意味の中核を担うなら漢字、語と語を接続するならひらがな。この使い分けによって、日本語の文は成立している。

漢字とひらがな 三（千字・硬い語彙） 課題

課題一 この文章を二百字以内で要約しよう。

[illegible]

課題二 比べている観点を三つ書こう。

①

②

③